

センター後援事業

第6回 「教えて考えさせる授業」セミナー

報告者 市川 伸一（大学院教育学研究科 教授）

実施日 2013年8月9～10日

於 赤門総合研究棟A200教室

「教えて考えさせる授業」セミナー（略称 OKセミナー）は、全国から「教えて考えさせる授業」の実践者・研究者が集まる機会として実施されている。第1回（2008年）は箱根、第2回（2009年）は熱海、第3回（2010年）～第5回（2012年）は本郷キャンパスで開催され、今回は第6回にあたる。定員60名のところを70名に拡大し、北海道から沖縄県まで、全国各地から多数の参加者を得て盛会のうちに終了した。

ちなみに、主催の「教えて考えさせる授業」研究開発ネットワーク（代表 市川伸一）は、明確なメンバー制をとる団体ではなく、メーリングリストで情報交換をしつつ、年に一度のセミナーを開催するというフレキシブルな非営利組織である。当日の内容は次のようであった。

<第1日目>

8月9日（金）

- 14：00～15：20 入門講習、質疑応答
- 15：30～17：30 実践報告、質疑応答
- 18：30～20：30 懇親会

<第2日目>

8月10日（土）

- 10：00～12：00 指導案検討
指導案はあらかじめ募集
小グループに分けて検討、全体会で発表
- 13：20～16：00 公開授業（理科、算数）
筑波大学附属小学校4年生クラス
- 16：20～17：30 全体討論

第1日目は、入門講座として、市川伸一より「教えて考えさせる授業」についての解説を行い、事例としては、中学校数学の文字式を扱った授業の指導案と授業ビデオを紹介した。午後には、先進校からの実践報告をめぐって、質疑応答が行われた。

第2日目は、あらかじめ募集した指導案について、数人ずつのグループに分かれて、「三面騒議法」によって検討した。「三面騒議法」とは、赤、青、黄色の付箋に、それぞれ「工夫されていてよいと思った点」「こうしたほうがよいと思うという改善点」「他の教科や学年でも応用できそうな点」を書き込み、模造紙に「教えて考えさせる授業」の4ステップごとに貼りながら意見交換するものである。通常は、授業の事後検討会で行うが、このセミナーでは、指導案検討でも実施している。

午後は、今年度も、実際に筑波大附属小学校の1クラスの児童を招いて、公開授業を実施した。4年生の森田和良教諭のクラスで、森田教諭が理科で「水の沸騰」の授業、市川伸一が「教えて考えさせる授業」のデモとして「折れ線グラフをかく」の授業を行った。

* * *

なお、「教えて考えさせる授業」については、市川研究室のホームページにそのコーナー

www.p.u-tokyo.ac.jp/lab/ichikawa/ok-toppage.html

があるので、そのページを抜粋して下に紹介しておくこととする。詳細については、参考図書等を参照されたい。

また、岡山では、「OKセミナー in 岡山」が年に一度開催されており、これも第6回を迎え、約

80名が参加している。

「教えて考えさせる授業」の趣旨と現状

(HPより抜粋)

「教えて考えさせる授業」とは、概念や手続きの意味理解を重視した「習得」の授業のスタンダードな設計原理として、2001年に提唱されたものです。教師からの説明、理解確認、理解深化、自己評価の4つの段階を踏まえて授業を構成することがその基本です。

「教えて考えさせる授業」は、「学力の低い子どもでも、基礎的な知識・技能を身につけて高度な課題解決に参加できること」、「学力が高い子や先取り学習している子どもでも達成感・充実感が味わえること」をめざしています。

学力差の大きな現実の学校で、なぜそのようなことが可能になるのか、というと、教師のていねいな説明と理解確認によって基礎知識の共有をはかり、その先に、やりがいのある理解深化課題を用意して、問題解決や討論を促しているからです。

また、自分の理解状態を診断するための「メタ認知」を促す自己評価や、協同学習の機会を入れることも推奨されます。

実践の広がり

2005年から2008年にかけて、中教審答申の中で、「教えて考えさせる教育」「教えて考えさせる指導」という表現が使われたこともあり、学校、自治体、民間教育団体などでテーマにするところが増えています。

自治体(教育委員会)としては、福島県郡山市、栃木県足利市、新潟県小千谷市、長野県千曲市、大阪府貝塚市、広島県江田島市、沖縄県うるま市などが、教員研修会で「教えて考えさせる授業」をとりあげ、研究校での実践研究を継続的に行っています。

静岡県では、中教審答申に先駆けて、「確かな学

力育成会議」の提言(2004年)の中で、「習得と探究」、「教えて考えさせる授業」などが盛り込まれ、2小学校、1中学校、1高等学校が県教育委員会の研究指定を受けて取り組んできました。

岡山県では、(財)福武教育文化振興財団の研究助成を受けて、中学校区を基本とする7地域で「学力・人間力育成事業(IFプラン)」が実施されています。その第1のテーマが、「教えて考えさせる授業」です。

そのほかにも、八戸市立長者小学校、横浜市立本町小学校、金沢市立犀川小学校、金沢市立清泉中学校、かほく市立宇ノ気小学校など、早くから「教えて考えさせる授業」に取り組み成果をあげている学校があります。

参考書籍

- 市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策』(小学館、2004年)
- 市川伸一『「教えて考えさせる授業」を創る』(図書文化、2008年)
- 市川伸一・鎗木良夫編『新刊「教えて考えさせる授業」小学校』(図書文化、2009年)
- 市川伸一編『教えて考えさせる授業 中学校』(図書文化、2012年)
- 市川伸一編『「教えて考えさせる授業」の挑戦』(明治図書、2013年)

特集雑誌

- “教えて考えさせる”授業設計のポイント(『楽しい理科授業』、明治図書、2006/9)
- 「教えて考えさせる授業」の工夫(『授業研究21』、明治図書、2010/2)
- 「教えて考えさせる授業」の提案(『国語教育』、明治図書、2010/4)
- 連載 教えて考えさせる授業の実践(『指導と評価』、図書文化、2010/7~2011/12)
- 連載「教えて考えさせる授業」をめぐる(『現代教育科学』、明治図書、2011/4~2012/3)